

〔第35回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

認知症治療への応用を目指した デリバリー担体の開発

ラジオアイソトープ管理室

中西 章 室長

2018年12月11日(火) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

アルツハイマー病に対する免疫療法は、現在種々の抗 $A\beta$ モノクローナル抗体を用いた受動免疫によるものが主流である。当研究室では、アルツハイマー病に対する受動免疫療法の治療効果促進を目指し、治療用抗体の脳実質への浸透を促進できる血液脳関門（BBB）透過モチーフの探索研究を行っている。抗体のような生体高分子がBBBを通過できるほぼ唯一のルートであるトランスサイトーシスについて、この移行を評価できるin vitro実験系を活用し、血液脳関門透過性の向上が期待できる種々の抗体・分子モチーフの探索等を行っている現在の進捗状況について、特に抗トランスフェリン受容体抗体の機能を利用した抗 $A\beta$ 抗体のBBB透過性付与の試みについて報告する。

また、 $A\beta$ ワクチン療法に対する経口ワクチン用ベクターへの利用として始めたノロウイルス研究については、ベクター開発に関する研究と共に高齢者に重篤な感染症を引き起す原因ウイルスとしての病原性発現についても研究を進めてきた。神経変性疾患の発症機序としても知られている種々の細胞ストレス反応が、ウイルス感染に対して起こる宿主細胞応答とも類似する場合は少なくない。今回は、ノロウイルスも含めたウイルス性腸管炎感染を引き起こすウイルスに対しての細胞宿主応答についての研究結果についても紹介したい。

座長：多田敬典

連絡先：副所長室(内線5002)